

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス共育コラム①



## 語彙（ことば）の豊かさが自他を守る

今の子どもたちの生活場面（学校、学童クラブ、ミニバスケットクラブ等）では、語彙（ごい）の少なさ（言語表現の乏しさ）が、トラブル（いさかいやつまずき）の原因になっていることが少なくありません。このことは、子ども時代の日常生活で起きるトラブルにとどまらず、そのまま年齢が上がり、青年、成人してしまうと、事件に巻き込まれるリスクが高いことが、さまざまな調査結果で明らかになっています。

2025年4月16日（水）19:30～20:00にNHKクローズアップ現代で報道された「『ヤバい』『エグい』は危険。注目される感情リテラシー」は、現代の子ども・若者の犯罪リスクを、さまざまな調査・研究から客観的に明らかにしたものが放送されました。「なぜ子ども・若者が、闇バイトと言われる特殊詐欺などのような犯罪行為に、安易に足を踏み入れてしまうのか」という問いに対する一つの答えとして受けとめなければならない内容です。

語彙が乏しく、感情表現が苦手。喜怒哀楽すべての気持ち（100の感情）を、極端に言うと「ヤバい」などの一言ですませてしまう。それが犯罪リスクとかかわっている。子ども・若者が安易に犯罪行為に足を踏み入れてしまうことにつながっている。そのことが、【イエール大学感情知性センター／アメリカの研究】で明らかにされています。

みんながみんなではありませんが、高校に進学もでき、中には大学まで行き、高い学力をもっているであろう若者が、なぜこんなばかなことをしてしまうのだろうと、ニュースを見聞きするたびに思います。

現代の子ども・若者の「感情表現の乏しさ」について研究している法政大学の渡辺弥生さんは、以下のような内容を提起しています。

- ✓ 自他の感情に気づけない。理解できない。
- ✓ 感情をうまく言葉にして伝えることができない。
- ✓ 自分の気持ちをコントロールできない
- ✓ 他者の気持ちをくみとれない。共感することが難しい。
- ✓ 何事（学習・生活）においても受け身で、自分で表現しようとしない。
- ✓ 語彙力がないと考えるための材料も少ないので、考えたり説明したりすることができない。

これらは、机上の教科学習だけでは身につけにくい学力です。いつも提起している通り、現代のおとな社会のなかで、学力があまりにも狭い意味でしかとらえられていないことが多く（つまり点数）、上記のような学力が育ちにくくなっていることが注目されず、置き去りになっている（育っていない）可能性があります。学校や塾等で一生懸命勉強して、一定の（狭義の）学力を身につけてせっかく進学したにもかかわらず、道を誤ってしまい想像もしなかったことが起きています。

小学生段階も、語彙（言葉）が乏しく、言葉で表現できないためにトラブルになっているケースは少なくありません。また、言葉のチョイスを間違えることで、相手を傷つけたり、誤解されたりしてトラブルになるケースも同様です。たとえば、「あたった」ことを「けたた」、「不意にぶつかつ

てしまった」ことを「おした」などと、単語（それも意味の違うことば）で表現してしまい、トラブルになることがあります。また、自分で見てないことを、事実（本当のこと）を確かめることなく、人の言うことを鵜呑みにして、言葉のチョイスも間違えながら間違ったことを払ってしまうケースもあります。安易なSNS利用とつながることもあります。先進諸国では10歳前半くらいまでのSNS利用を制限し始めていますが、日本は何ら対策がとられていません。現在、中学校の生徒指導上の問題のほとんどがSNS利用によるものと聞いています。学校（教員）だけでは、どうしようもないケースが少なくありません。

遊びの変質とともに、今の子どもたちの言語表現の乏しさは顕著です。外遊び、群れ遊びの減少でコミュニケーション力を培う機会が失われています。使ったことばや言い方で、相手がどんな気持ちになるかを想像する力も、極めて弱くなっています。

バスケットのプレーでは、身体接触は常です。しかし、それはルールのなかでのことで、どちらかに責任があるものについては、「ファウル」の判定が下されペナルティが課せられます。ぶつかってしまうこともあるし、相互に押し合いながらポジションをとることもあるし、予期せず足にひっかかってこけてしまうこともあります。しかし、それらは、すべて悪意をもって故意に起こす現象ではなく、互いに負けないようにがんばろうとして生じている現象ですから、むしろよく頑張っていると評価されることです。

子どもたちの言語・感情表現は、なぜ乏しくなっているのでしょうか。一側面として、【現代人の語彙に関する調査2019】で、デジタル化の問題と、それによる生活スタイルの変化の問題が指摘されています。

- ✓ 文字媒体かつ単語、短文でのやりとりが増えたこと。
- ✓ 同時に話してるのではなく、自分の思い思いの時間にしゃべっている。
- ✓ 互いの気持ちを深いところまでコミュニケーションできていない。
- ✓ 家族で集まって団らんすることがない。集まっても、それぞれがスマホを見てるだけで、家族の団らんがない。
- ✓ スマートフォンの接触時間と語彙力（高校生）の調査で、スマートフォン使用が2時間以上の場合、語彙力は急激に低下する。



語彙が乏しく、感情表現が苦手な子ども。人の言いなりになりやすく、事件に巻き込まれやす

そうならないためには、気もちを言語化すること（力）が大事。それを促すかわりが大事。

**語彙（言葉）の豊かさ＝感情表現の豊かさ**

群れて遊ぶ子どもの世界、遊びのなかで鍛え合う自制心や自律の力など、コミュニケーション力が子どもの生活、学び、生きる力としての学力の基盤になります。子どもにとっては、すったもんだも貴重な学びの機会です、おとなのかかわりは、それをサポートするものでなければなりません。